先生の「しごと」と数を問い直す

教員政策の歴史から

民研
フォーラム

11月23日
（木・勤労感謝の日）
14：00～16：30
オンライン（Zoom）

★参加無料　希望者は
前日の午前中までに下記フォームへ
https://forms.gle/YtfPNsRAZSwThmuPA
メール（office@min-ken.org）の場合は
氏名・フリガナ・メールアドレス
・所属を記入。前日に案内と資
料を送ります。

学校の先生の深刻な多忙状況は大きな問題となっています。では、なぜ多忙なのでしょうか？社会の変化に伴う学校の役割期待の拡大や学習指導要領の内容、さらに給特法の問題性などが指摘されており、議論百出の状況にあります。しかし多忙を問うためには、そもそも先生の「しごと」や必要な教員「数」がどのように語られてきたのか、その前提に向き合うことも重要な作業ではないでしょうか。本フォーラムでは教員政策の歴史を紐解き、先生の「しごと」と数を問い直します。

報告

◆ **義務教育標準法における教職員定数算定方式に関する政策動向**
――数の算出根拠に着目して
大沼春子　（北海道大学大学院生）

◆ **1960～1970年代における非正規教員の任用をめぐる制度・政策動向**
――代替・試補・調整弁を手掛かりに
原北祥悟　（崇城大学）

全体討論

主催　**民主教育研究所**　東京都千代田区二番町 12-1　全国教育文化会館 5F
Tel 03-3261-1931　Fax 03-3261-1933　office@min-ken.org　https://www.min-ken.org